

大阪には、同友会会員にとどまらず、先進的な中小企業の事例が蓄積しています。この欄では、事務局員が会員外の優良企業を訪問し、記事として大阪同友会会員のみなさまにお伝えしたいと思います。

### 会社の発展は、労働環境の整備と共にあった

有限会社青葉



代表取締役  
渡部 一博氏

2月上旬、大手インターネット通販サイトのマタニティ・ママ部門（妊婦帯・腹帯）ランキングを見てみると、TOP10のうち半数以上を（有）青葉が製造・販売する「トコちゃんベルト」が占めていました。この商品は妊娠中・出産後もマイナートラブルに悩む女性が多くおり、それを解決したいという思いから開発された骨盤のゆるみや筋力不足をサポートする骨盤ケア用品です。

同社は「どうやってお母さんが健康に過ごし、元気に赤ちゃんを産んでそして楽しく育ててもらおうか」という視点を持って製品開発を行っています。さらに『トコちゃんの

マタニティ & ベビーケアハンドブック』を自主製作・配布するなど、子どもの発育や母子医療への貢献も大切にしています。



驚くべき特徴は従業員の構成にありました。従業員のうち男性は社長を含めて2名のみ。9割以上が女性です。同社製品のメインユーザーである妊産婦が安心して体の悩みを相談できる環境を作るには、女性の力が不可欠でした。現在活躍中の従業員の中には子育て世代も多くおり、経験者としての意見や視点が会社に生きているそうです。渡部社長は、彼女たちに長く勤めてもらわないと自社も継続していかないという考えがあったので、働きやすい環境の整備は必須だったといいます。そのため「ワークライフバランス」という言葉が広まるずっと前、人を採用し始めた時から労働環境整備に取り組んできました。現在は3名の従業員が育休・産休を取得中。影響が全くないわけではないですが、全社員がそれぞれの能力を發揮しながらお互いをサポートしています。

さらにもう一つ大きな特徴は、営業部が無いということ

です。その代わりに置かれた事業部の中に広報活動を行うチームがあり、ここが商品のPRや認知度アップをになっています。クリニックをはじめ、お産の施設に訪問し、看護師・保健師・助産師などを対象とした講習会を実施。製品の使い方はもちろんのこと、現代の妊産婦の腰痛や子どもたちの運動能力低下がなぜおこるのか、さらには同社の健康に生きることについての考え方も伝え、共感の輪を広げています。

また自社制作のホームページでは一般事業主行動計画を公開しており、その中には「育児休職取得率100%維持」や「所定外労働時間削減への取り組み」が目標として掲げられています。加えて次世代に向けての取り組みとして、地域の大学やハローワークとの連携を強化し、現在も実施しているインターンシップ等の職業体験機会の提供をめざしています。

トコちゃんベルトが誕生して20年以上が経ちました。これまでの活動や実績から、トコちゃんベルトと骨盤ケア

が2017年に刊行された医学書、先端医療シリーズ48『臨床医のための最新産科婦人科』に技術資料として4ページにわたり収録されました。「事業を通じて女性の健康と幸せに貢献する」という会社理念が具現化した瞬間の一つです。



（文：事務局員 坪本 奈緒美）

◆会社概要◆所在地：東大阪市菱江／資本金：2000万円／設立：1997年2月／社員数：役員3名、従業員18名／事業内容：マタニティケア用品・ベビーケア用品の製造卸販売